7月8日 金曜日 7日発行
昭和30年西暦1955年
発行所 内外タイムス社
東京都中央区銀座3の5
電話 代表 京橋(56)8646
(直通)販売 〃 0437 広告 〃 3995
編集局 港区芝田村町5の6
電話 代表 芝(43)1163
振替 貯金口座 東京170071

内外タイムス
THE NAIGAI TIMES
第3150号 (昭和24年6月27日第三種郵便物認可・昭和24年5月27日国鉄特別扱承認第232号)
(中華郵政台字第637号執照登記為第2類新聞紙類・内政内警台誌字第0136号)

あすの 7月8日・金 旧5月19 月齢18.0 日出 前4.31 日入 後7.00 月出 後8.42 月入 前7.09 満潮 前6.19 後7.55 干潮 前0.50 後1.05 (中潮)

天気予報 今晩 南のち北の風曇時々俄雨…では雷雨。明日 北のち南の風曇、一時…

米の誠意信頼せよ

ア大統領 巨頭会談を語る

【ワシントン六日発AP＝共同】アイゼンハワー米大統領は六日の定例記者会見でつぎのように述べた。

▽ソ連は米国がジュネーヴの四国巨頭会談で十分な誠意をもって交渉に当ることを確信してもよい。

▽私は非常に希望に満ちた態度で巨頭会談に出席するつもりだ。しかし米国のこの〝希望〟がさらに〝期待〟へと成長するためにはまだ多くの栄養ある食物が必要である。

▽ジュネーヴの巨頭会談では軍縮問題が討議されるとは考えていない。ただし軍縮についての話合いを行うにはどのような径路によるのが一番よいかということについて意見の一致を得ることは可能かもしれない。この軍縮という全問題は、これをせんじつめると双方が受諾できるような軍備監視制度をつくるということである。

▽もし軍縮についてなんらかの適当な方法が発見できるならば、世界が軍備にいまほど力を入れることは全く愚かなことである。巨頭会談ではどういうグループが世界の軍縮について検討すべきかを決めることになるかも知れない。米国がある国際機関に米国内のあらゆる軍事工場をどこまで監視させる意向をもっているかということは一つの問題点だが、米国としては自国の欲しないような監視手続きを他国が受けいれるとは考えられまい。

▽この監視という点については原子兵器輸送に使われる長距離爆撃機の数を決めることは比較的容易であり、また原爆を運ぶ無線誘導兵器は小工場では製造されないので、その生産を隠すことは困難だ。

▽米国は軍備競争を終らせるためのなんらかの解答をみつけたいと真面目に望んでいる。平時の原子炉がすみやかに戦争目的に転換できるという危険がいくらかある。またこのような原子炉が平和利用にとって必要であるより以上のものを生産できるという可能性もある。しかし問題の核心はやはり監視方法のいかんである。

【ワシントン六日発UP＝共同】アイゼンハワー米大統領はさらに四国巨頭会談に臨む米国当面の目標について次のように強調した。米国当面の目標は恒久平和のための一つの基礎として各国内の信頼を築くための暫定措置を見出すことである。現在各国はお互いに信じあっていないので、相互の信頼を築くための暫定措置が必要な第一歩となるわけだ。

▽(フルシチョフ・ソ連共産党第一書記が四日モスクワの米大使館で述べた言葉について)米国はソ連の大きな軍事力をよく知っており、米政府部内でソ連が弱いといったものは一人もないはずだ。

ア米大統領

内閣改造はできぬ

根本官房長官語る

根本官房長官は七日午前の記者会見で米価、内閣改造などの問題について次のように語った。

一、米価を八日の閣議で決めるという政府の方針は今のところ変っていない。

一、一部に国会終了後内閣改造があるような話が出ているが、私は内閣改造はかえって党内にゴタゴタを生ずるからできないと思う。しかし自由党との連立ということにでもなれば話は別で内閣改造は今後の保守結集の進展如何による。

内閣調査室の機能を強化へ

政府、人事刷新など検討

政府は先きに内閣調査室長に古屋亨氏(警視庁総務部長)を起用したが、今後も下部の人事刷新を行って調査室の機能を充実させ、今までの特高的な性格を是正して行政施策、日ソ交渉、南方貿易などに対する世論の動向観察を進めることになった。

右社 政府の態度明示を要求

医薬分業問題

右派社会党は七日の国会対策委で、医薬分業について政府の方針を明確にするよう川崎厚相、根本官房長官に申し入れることを決めた。医薬分業に対する右社の態度は実施延長法の期限が切れる三十一年四月一日から実施すべきであるとしているが、政府の新医療体系に応ずる準備が不足しているため問題を一層混乱させているとしている。

秘密会で検討

知事会議 米価問題など

全国知事会議第二日は七日午前十時半から東京九段の都道府県会館で行われ、直ちに秘密会に入り三十年産米対策について清井食糧庁長官の説明を聞き、これにたいする質疑を行った。午後は二十九年度義務教育費国庫負担金の早期交付、駐留軍使用道路の修繕費に対する国庫補助、三十年六月災害の復旧など十項目の府県提出議案を関係方面に要望することを決めた。これで二日間の会議日程を終ったが、地方交付税率引上げの改正法案が国会に提出されるまで会議を継続することを申合せた。

統一の主導権獲得

右社〝倒閣〟決定のねらい

(上)河上委員長 (下)浅沼書記長

右派社会党は四日の箱根における首脳会議で鳩山内閣打倒の態度を決め、左社および支持団体などと世論を盛り上げて具体的共闘を展開することを明らかにした。

右社がこのような従来の態度より一歩前進した強い態度を打ち出したことは、鳩山内閣が選挙中の公約を無視して憲法調査会法案、再軍備をねらいとした国防会議構成法案、さらには中央集権化を目的とする自治法改正、地方財政再建促進特別措置法案など一連の反動法案を続けざまに国会に提出し、吉田前内閣以上の反動的性格を露骨に出してきたためだとしている。

右社としては〝鳩山内閣打倒〟ということについては鳩山内閣が成立したときから保守、革新の対決という意味から胸中深く秘めていたことであり、いつ〝打倒〟の態度を公表するかその時期をねらっていたわけであるが、最近民自両党が急速に接近し、自由党が実質的閣外協力の態度に出てきたので「クサビを打ち込む作戦」をさらに前進させて「打倒」という態度を打ち出したものとみられ、この作戦の転換はこんどの保守合同、両社統一問題ともからんで微妙なものがある。しかし従来左社にくらべ比較的弾力性のある態度をとってきた右社が、急激にこのような態度を左社に先んじて決めたことは、左社の統一攻勢に対抗した主導権確保への手段をもからませているものとみられている。

また鳩山内閣打倒による日ソ交渉への影響についても河上委員長、浅沼書記長ら幹部は「超反動的性格をもった内閣の手による日ソ交渉はもはや期待できない。したがって国民的要望の日ソ交渉が始まったからといって、これで内閣打倒が打ち出せないような弱腰ではない」との態度をとり、暗に左社が日ソ交渉とのかね合いで内閣打倒に踏み切れないことを生ぬるいとしている。

一方このような強気になった右社から両者首脳会談をもちこまれた左社は、十一日の中執委で鳩山内閣にたいする態度を決めることとしているが、党内の空気は右社の態度にはきわめて批判的である。したがって左社としては六日の幹部会では「内閣打倒の目標に向かって漸次闘争を展開する。このため党内体制を確立し、世論を打倒に盛り上げる」との基本方針を決め、この線に沿って右社との首脳会談に臨むこととなった。左社がこのように吉田前内閣にたいする態度より一歩後退したような態度をとっている最も大きな根拠は

一、打倒への体制が何ら確立されていない。

一、世論が打倒するところまで盛り上っていない。

ことなどである。いずれにしろ右社が内閣打倒を打出したことは、これがそのまま両社統一の主導権争いにつながる要素も含んでいるだけに、十一日の両社首脳会談でどのような態度を打出すか注目される。【解説】

水入らず

森雅之氏一家

写真(前列)左から生馬氏長女、森氏、生馬氏(中列)里見弴氏、雅之氏長男、二人おいて弴氏夫人、生馬氏夫人(後列)二人目雅之氏次男、三人おいて雅之氏夫人

○…奇しくもきょうは大正文壇の巨星有島武郎氏が世を去った日である。つまり大正十二年七月七日払暁、軽井沢の別荘の階下応接室で愛人波多野秋子さんと心中したのである。あれから三十三年の歳月は過ぎて、今では有島武郎氏の情死事件よりも、その遺児森雅之(本名有島行光氏)の「雨月物語」「羅生門」などが有名で有島行光といっても若い人にはピンと来ない。

○…森雅之一家のホマレはそれだけではない。芸術院会員、戯曲・小説家の大御所里見弴氏、一水会の重鎮有島生馬画伯を叔父にもっており、生馬画伯は武郎氏亡きあと森兄弟の親代りとなって面倒をみてきたのである。だからこの叔父－甥一家は別々に住んでいても本当に血の通った芸術一家である。

優れた〝芸術一家〟

○…森雅之の弟には敏行、行三両氏がいたが、次男の敏行は既に他界し、三男の行三氏は親せきの神尾大将の養子に行き、今では神尾姓を名乗り会社勤めをしている。先代武郎氏が情死した当時の有島家の模様を「東京朝日新聞」は「武郎氏の死を伝えた有島邸で有島生馬、里見弴、有島行郎氏らの兄弟をはじめ神尾大将その他の親戚一同馳せ集まり、幸子母堂を中心に全く途方に暮れている…中略…行光(一三)敏行(一二)行三(一〇)の三児だけは土曜・日曜をかけて鎌倉の生馬邸に出かけて不在で〝まだ子供達にはあまり痛ましいので話してない〟と家人は眼をしばたゝいている」と報じている。

○…この悲劇の文豪を父にもった森雅之は父の遺志を継ごうとでも考えたのか、京都大学文学部に入ったが、中途で退学し、劇団テアトル・コメディに入り、以後文学座、東京芸術劇場、民芸などの舞台で活躍、十七年文学座時代に東宝の「母の地図」に出演いらいラジオ、舞台と並行して映画に出演「安城家の舞踏会」「羅生門」「雨月物語」などのヒット作に出演、その間二十二年には男優演技賞をうけ、今では押しも押されもせぬ一流スターである。

○…順江夫人とは二十一年の帝劇合同公演の「真夏の夜の夢」の舞台上で〝王様の雅之〟と〝妖星順江〟の恋を地で行って結ばれたものである。森夫婦の叔父評は「弴叔父はキサクで話しいい人、生馬叔父は父代りだったせいか今でもケムったい」そうだ。年に二回の訪問の時には弴先生には演技の批判などまとめて受ける。いずれにしても芸術的に恵まれた一家である。(豊)…完

粋人酔筆

十五の娼

中村芝鶴

夜なのではっきりとは見えないが、なるほど第一の妓楼というだけあって三階建の堂々たる構えである。だが家は古い。

門を入る時、なにか日本の銭湯をフト感じた。それは建物の割に、間口が狭いせいかも知れないが、中へ入ると中庭は広く、その庭を城壁の如く、三層楼が取巻いて、手摺付の満州特有の廊下が各階に見える。まるで井戸の中から夜空を眺める感じだった。階段はとても急で幅も狭いが、二階三階と昇って廊下へ出ると、こんどは庭が地の底のように見えるし、廊下に並んでいる部屋は、少しのすき間もなく、汽車の客車が着いているようにさえ思われた。

でっぷりと肥った若い男、日本ならさしずめ牛太郎という格らしいが、満州語でペラペラ喋りながら案内してくれたのは、大きな卓に椅子が沢山ある、だだっ広い部屋だった。先ず引付けという所らしい。この夜は私達夫婦と案内役の会社の重役の三人がこゝのお客様で、実は私の希望で見学に来たのだ。

しばらくするとドヤドヤと入り込んで来たのは、みんな若い女性だった。直ぐ私達の隣へ掛けると、運ばれた酒の酌をする。椅子が足りなくて掛けられない連中は立ったまま、背中といわず肩といわず、しなだれ掛って身動きも出来ないほど女群の世界だ。牛太郎は、だみ声で喋りまくる。

「この立派なお客様方を、お前さん達はよくおもてなししなければいけませんよ。旦那さんたちも奥さんも、お前さん達の中から一番綺麗でおとなしくって、親切におもてなしの出来る者をおより下さるに違いないよ」テナことをいってるらしい様子だが、しとやかに見えたこれら女群は、急に甲高い声を上げて、私達に媚び、甘え、話しかける。しかも日本語で…。

「旦那さん、アタチ好き?」

「奥さん、アタチ好きよネ?」

首にかじりつき肩をゆさぶる。若き女性の体臭、にんにくの息、どぎつい香水の底から湧く汗のにおい。牛太郎は卓を叩いて絶叫する。

「そら旦那さん方も奥さんも、お前達を可愛がって下さるよ。みんな一生懸命お願いして早く決めてお貰いよ。お前達の中から、誰がこの立派なお客様のお相手に選ばれるのだい この立派なお客様を逃がしてはなるまいよ」

その絶叫の終るか終らないうちから女群は黄、青、赤、いや五色の声を張りあげて、私たちをゆさぶり叩き、しがみつき、かじりつく。いやはや大変な騒ぎ。

「助けてくれよ。皆んな好き……」蛇の如くからみついている手を解きながら、のぼせ気味で相手になっていると、重なり合う手の中から、私の手を握ったのは人形の手のように小さな手。

「旦那ちゃん、アタチ好き?」覗き込んだ顔を見るとまだ若い。いや少くとも他のうら若き女性の中での最も若き女性だ。「君、幾つ?」だまっている。言葉が通じないのだ。

「十五だって」牛太郎に聞いて、重役さんが通訳してくれた。私は妻と顔を見合せた。妻はその少女を呼んで手を握った。

「奥ちゃん、アタチ好き?」甘えるようにいって妻の顔をじっと見ている。

重役さんは紙入から何枚かの紙幣を牛太郎に渡すと、彼は丁寧に頭を下げて出て行った。それが何かの合図なのか、賑やかだった五色の声も次第に静かになって、一人去り、二人去り、さながら煙の消える如くまたたく間に誰一人いなくなった。

急に淋しくなった部屋。私達は外へ出た。月が出ている。涼しい満州の夜の往来だ。私達は馬車に乗った。「あの娘、あれでお客が取れるんですかしら?」「サァ判らないね。うちの娘より一つ下だからね」買う男の面が見たいとはいわなかったが、専門学校の試験準備に東京に残っている我が娘を心に描いた。

最近問題になっている売春禁止法について、昭和十六年の満州の思い出を、書いて見ただけに過ぎない。

ジグザグコース

暁の恐怖

また〝お定事件〟が起った。大田区仲六郷の露店焼鳥屋の香取亨さん(三九)が五日朝五時半ごろ妻の清子(三三)にナイフで下腹部の急所を切り取られた。亨さんが元パチンコ店員のA子さん(一八)とねんごろになり、連夜通いつめたので、嫉妬の凶行だった。この記事を読んでヒヤリとした男性は少くはあるまい。〝お定事件〟といえば、一昨年の七月に、たて続けにこの種事件が二件発生したが、その初めの事件が、こんどと同じ日の七月五日でしかも午前五時二十分と凶行時間もピタリ一致しているのは面白い。これは中目黒の会社員上村信雄さんが、妻の千代子＝当時(三八)＝に別れ話を出したので軽便カミソリで局部を切られたものだった。そして四日後の九日には文京区元町の元映画スター市橋利惠＝当時(三八)＝が愛人の佐藤文雄さんの局部を西洋カミソリで切り落し、それを自宅前のマンホールに捨てた。これは双方とも浮気で痴情の凶行だったが、以上三件とも早朝の事件であるのは、やはりモノがモノであるせいでもあろうか。そういえば〝定られる〟という言葉まで生れた例の第一号お定さんの事件も、やはり早朝一時であった。

つまり昭和十一年五月十八日の午前一時、尾久の料亭「まさき」で愛人の石田吉蔵さん＝当時(四二)＝の急所を「どうせ添えない運命なら…」と〝愛するが故〟に切り取った。お定さんは当時三十一歳だった。いま浅草の民謡酒場のマダムをしているお定さん、こんどの事件の記事を苦笑しながら読みつゝ、往時を懐しんでいるかもしれない。

四つの〝切り取り〟の時間が早朝であったという一致のほか、季節的にも関連性がある。当局の調査によると、女性の犯罪はツユか、その前後が年間を通じて最も目立っているという。前記四つの〝定られた〟事件もこれにあてはまっているではないか。気候に強く左右される女のサガの悲しさであろうと説明する人もある。ともあれ、こんどの事件がきっかけで世の亭主族は〝恐妻〟に一層の拍車をかけられることだろう。ツユ時の女房はコワイ。桑原々々…。(晶)

【写真は香取清子】

日本綿布の再輸出禁止など

国際紡織連決議

【オステンド六日発ロイター＝共同】国際紡織連合会は去る一日以来ベルギーのオステンドで大会を開いていたが、六日閉会にあたり次の三つを決めた。

一、国際紡織連合会は欧州の加盟各国の紡織団体に対し、日本製未サラシ綿布を加工のうえ欧州内市場へ再輸出するのを禁止することに同意するよう要求する。

一、日本が再び国際紡織連合会に復帰するよう希望する。

一、ポルトガルの新加入を承認する。

きょう両院通過

米の対外援助法案

【ワシントン六日発AP＝共同】米上下両院協議会は六日、一九五六会計年度(本年七月－明年六月)の対外援助支出権限法案にかんする上下両院案の相違を調整、総額を三十二億八千五百八十万ドルとすることに意見一致した。協議会案はただちに上下両院に送られ、七日中に承認を得られる見込み。妥協案はほぼ下院案どおりで、上院案は三十四億二千五百万ドルとなっていた。

加瀬国連大使着任

【ニューヨーク六日発共同】加瀬新国連大使は六日正午ワシントンから空路ニューヨークに到着、ただちに大使公邸に入った。

ないがい川柳

吉田林司選

まだ耳が近い姑に聞った音 荒川 松永 眞

書腰で科目に入れる浪の音 北 時田 柳翠

また夏になって痴漢は悩まされ 千代田 南 浪波

八頭身腰が出れば左に非ず 江戸川 伊沢 久坊

バンガロー男のたいた飯の味 川崎 小宮せいじ

蝉蚊より追っ拂いたい街のダニ 千葉 呑気坊

【賞】新記録揃ぎ屋上の人となり 国分寺 佐藤千恵子

内外抄

◇内閣改造の話が持上って来た。鳩山内閣延命のためおいおい吉田内閣を見習ってね。

◇医薬分業紛争がブリ返し、お医者さん代議士は一致奮闘、超党派はこんな時だけ。

◇自衛隊員募集に苦労の防衛庁が近ごろの好成績でやっと安心、徴兵制をしく中共が羨しかろ。

◇北鮮とは新関係を結ぶつもりはないと谷顧問の談話、この際邦人引揚にプラスにならぬ話。

◇今宵は七夕祭。下界では商店の売出し景気づけや恋人同士のランデヴーに利用させて戴きます。

市況 閑散ながら小確り

各別手掛りもないので全般は見送り人気を一段と深めており大証券の優良株買も緩慢ながら続いているので、市況は閑散のうちにも微しても小確りを保つている。特定株は売買ともに見送られてほとんど前日に続いて確り保合に止まり、雑株も大部分無気力なコゲ付商状で、五円以上動いたものは三銘柄という低調さながら売物薄となつている折から化学、食品、資源、石油などの一部に買気が続いて三円方ジリ高をたどるものが多くなつた。

▽高い株＝日鉄鉱、積水化六円、日炭五円、丸善油、銚子四円

東京株式仲値

新株落△配当落 (7日前場終値)

特定銘柄	
東海上	255
郵船	59
新三菱	85
日清紡	264
味の素	273
三越	267
三菱地	487
平和不	182
三井金	112
三菱金	85
日鉱	82
住友金	92
三菱鉱	40
古河鉱	60
同和鉱	113
住友炭	52
三井山	54
北海炭	50
東邦亜	63
帝石	69
日石	97
昭和石	100
東燃	115
三菱石	122
大協石	117
日東化	73
日産化	76
三菱化	106
三井化	115
協和醗	114
東合成	117
三共	150

銘柄	
信越化	80
東高圧	124
昭電工	85
日本曹	76
旭電化	—
三菱造	83
三井造	117
三菱重	63
石川重	92
稲工	130
東洋ベ	112
日立造	50
浦賀	49
日平	21
古河電	67
日立製	68
東芝	65
三菱電	79
小松	51
日本光	141
キヤノ	144
東京光	—
東洋紡	137
鐘紡	115
富士紡	108
大日紡	82
日東紡	59
片倉	39
東邦レ	98
帝麻	53
中繊	52
帝人	133
東洋レ	179
三菱レ	122

銘柄	
倉レ	96
旭化成	340
山陽パ	100
日本パ	97
国策パ	104
東北パ	118
大東紡	96
商船	45
三井船	48
飯野海	45
西武	354
藤田興	217
東京ガ	66
東電	464
日銀	—
東銀	71
三井銀	—
富士銀	88
日証金	86
安田火	110
大正海	90
住友海	80
千代田	—
鋼管	70
日製鋼	68
八幡鉄	50
富士鉄	47
神戸鋼	53
日特鋼	117
日軽金	177
日金工	60
日セメ	129
磐城セ	235
小野田	80
横浜ゴ	159
旭硝子	140
富士写	125

銘柄	
小西六	117
カボン	48
三井物	140
第一物	96
白木屋	—
高島屋	81
日活	70
松竹	197
東宝	1330
大映	178
日本粉	130
日清粉	158
日本ビ	156
朝日ビ	177
キリン	198
宝酒造	91
台糖	223
明糖	117
甜菜糖	132
野田醤	188
森永	285
明菓	184
日水産	82
昭和産	93
東洋漁	69
合同酒	110
三楽	92
大阪商	144
王子紙	213
十条紙	224
本州紙	86
三菱紙	86
北越紙	57
三井不	790
三井倉	73
渋沢倉	—
東洋埠	—

本紙愛読者に贈る夏のサービス

7月10日から→8月31日まで

☆〝四年ぶりの暑さ〟といわれる夏が来ました。本社では愛読者の皆様への夏期サービスとして例年の如くお馴染の湘南海岸〝海の家〟に房総館山海岸を加え、更に国立公園箱根芦の湖畔に〝山の家〟を特約して皆様のご利用に供しますから奮って御参加下さい。

内外タイムス山の家

箱根芦の湖畔・湖尻バンガロー村往復バス毎日運行

☆参加会費・五五〇円(東京－箱根町往復料金と山の家、遊覧船割引券付)

☆優待特典・山の家、湖尻バンガロー宿泊施設半額、芦の湖遊覧船往復(一四〇円)を五〇円に割引優待す。

【コース】往路、東京駅八重洲口(八・〇〇)出発、江ノ島(五分休)－小田原－箱根町(一二・〇五)着、箱根町から片道25円(芦の湖遊覧船乗船)－湖尻バンガロー村着(一三・〇〇)一泊。帰路、湖尻バンガロー村(一四・〇〇)出発－往路同様のコースにて東京駅(二〇・〇五)帰着

△横浜方面からの方は横浜駅前(八・〇〇)に出発、山の家に約一時間早く到着。△山の家バンガローは芦の湖の淡水浴場、貸ボート、魚釣、キャンプファイヤー△売店には日用品を始め食糧、調味料あり、貸毛布(30円)布団(50円)食器類も用意があります。(お持込み自由)△ハイキングで箱根長尾峠まで四〇分、仙石原ゴルフ場、姥子温泉、大涌谷、遊覧船利用の場合は箱根権現、旧関所、考古館、恩賜公園

☆申込・本社事業部(56)八六四六、箱根登山東京出張所(28)四四〇二、赤木屋ガイド(23)二一三二、松坂屋チケットビューロー上野(83)四八八四、銀座(57)四一六一

施設と優待料金

バンガロー	棟数	通常料金	特別割引
3人用	20	300円	150円
5人用	10	500円	250円
12人用	3	1.200円	600円
15人用	2	1.500円	750円
35人用	1	2.800円	1.400円
50人用	1	4.000円	2.000円
キャンプ5人用	20	400円	200円

内外タイムス海の家

鎌倉 由比ヶ浜海の家 国電鎌倉下車15分 由比ケ浜中央石段角

片瀬 東浜海の家 小田急片瀬5分、江ノ島桟橋から四軒目

片瀬 西浜海の家 小田急片瀬2分、モータープール前海岸

逗子 渚海岸海の家 国電逗子下車5分 逗子海岸不動寄り

房総 館山海の家 国鉄館山下車8分、東海汽船館山桟橋下船1分

更衣室、シャワー、売店の設備があり、本紙優待券をご利用下さい。

半額 (大人)30円 (小人)20円

☆通常料金(茶代を含む)60円(小人40円)を本紙優待券(十日の紙面から刷込)切抜ご持参の方に限り上記の割引料金でご優待します

☆館山海の家のみ(大人20円)(小人15円)

☆片瀬西浜モータープール際「蛇の目寿司」2割引

内外タイムス社

青春無宿 (59)

大林 清
下高原健二 画

晝の狼(十三)

「まァ待て、いま血をふいてやる」唇と目尻が切れているらしい。鬼頭がポケットからとり出したハンカチで、次郎の顔をぬぐいはじめた時、連れの男たちが寄って来て、

「ほんとうだ、宇田だ」

「俺たちがわかるか、おい」

などと、次郎をとり巻いた。塩田、今村、天野、西村など、いずれも一、二級の差こそあるが大学の同窓で、ボート部の選手だった連中だ。

「お前の住所がわかっていたら、もちろん誘うところだったんだが今夜ここの松本楼でボート部の同窓会をやっているんだ。喧嘩だってんで飛び出して来たんだが、やられているのがまさかお前だとは思わなかったよ。ちょっとまァ中へはいれ、シャツも血だらけだ」

鬼頭がそう云って、次郎の腕を肩へかけようとした。

「あるける、大丈夫だ」

次郎はその腕をふりきるようにして、たしかな足どりで、柵の外へ出た。愚連隊もさすがに、鉄拳以外の武器は使わなかったらしく靴で蹴られた痛みのほかは、たいした負傷もしていないようだった。出来ることなら誰とも言葉をかわさずに、この場から逃げてしまいたかった。

松本楼の入口にも、従業員たちが押し出して来て、好奇の眼をむけていた。

「さァどいたどいた、見世物じゃないんだ」

鬼頭は大声を張りあげて、道をあけさせ、次郎を廊下へ連れこんで行った。

同窓会の催されていたらしい部屋の、食事半ばだったテーブルの前へ、次郎は遅れて来た参会者のように、かけさせられた。

「なんだあいつらは、不良かゴロツキみたいな奴らだったな」

横へかけた鬼頭が、あらためてきいた。

「なんだかよくわからん、喧嘩をふっかけられたんで、相手になっただけだ」

次郎はそれまでに考えていた言葉を云った。一応の社会人になっているにちがいない同窓の仲間の前で、銀座の愚連隊と、愚にもつかないいざこざを起している事情は話せなかった。

「馬鹿だなァお前は、相手になる奴があるか。いくら腕に覚えがあったって、あれだけの人数にかかられて、かなう筈はないじゃないか。だが、俺も久しぶりで二、三人投げ飛ばしたよ」

柔道部でも次郎の好敵手だった鬼頭は、まんざら荒っぽいことの嫌いな方ではない。

「やられているのが宇田だとわかったら、一人も逃がさずたたきのめしてやったのになァ」

と、今更腕をさすって、残念がる者もある。運動部の中でも、巨漢揃いのこのボート部の連中が暴れだしたら、愚連隊は実際一人残らず無事ではいなかったろう。

次郎はボーイが運んで来た蒸しタオルで顔や手をぬぐい、血の飛び散った開襟シャツをぬいで、やっと人心地がついた。はじめから臭いと予感していながら、光代をダシに使われると、半ば承知で、わなにかからずにいられなかった自分が、自分自身にさえなんとなくうしろめたい気持だった。

「まァ飲め」

鬼頭は次郎の前の空いていたコップへ、ビールを満たして、

「それで、宇田はいま何をしているんだ」

と、何よりも痛い質問をむけた。

紺碧の海 和製マンボに舞う
今に残る 八丈島・大島 女童風俗

マンボに明けて、マンボに暮れる大東京の虚飾と喧騒から逃れて、東京湾を一路南へ紺青の海原を突っ切ること約百六十㌋、そこにも同じ東京の空の下がある。鳥も通わぬといわれた八丈島は、神秘と伝説の青ヶ島とならんでいまでは東京都の最南端だ。そこにはマンボも知らず、Aラインの流行を追うことも知らないナイーブな女童(島娘)が、黒い瞳を輝かせて、何かしらあこがれと希望を夢みるという。島で育てば娘十六…唄の文句ではないが、その弾む胸にどんな思いを秘めているのだろうか。真夏の海に浮ぶそれらの島々を伝って、女童やアンコたちの心の扉を叩きながら、近ごろ島の娘気質をアレコレたずねてみた。

すき流す漆黒の髪
〈八丈島〉朴訥な南海天国

むかしから流刑人の地として知られる八丈島は、さぞかし断崖に囲まれ奇岩怒涛に洗われて鬼気迫るところと思いきや、これが八丈富士の裾野もなだらかに陽光ふり注ぐ南海天国だった。周囲六十九㌔、人口約一万三千、四発機が発着する飛行場もあれば、銀座そこのけのハイヤーも走っている。四季とりどりの花に恵まれて、人の心は朴とつに過ぎる。一口にいえば八丈島は美人郷だ。神湊港に上陸して島の中心平坦地三根村から大賀郷村へ抜ける街道を行くと、まず目立ったのが島言葉で女童とよばれる娘たち。"黒い髪の毛、長さも背丈け、かわいあの娘は島育ち"と誰が歌ったか島の古い唄にもあるように、ここの女性の特徴はその漆黒の髪にあるようだ。むかしはその髪を長く梳き流して背丈けにまで及んだものらしい。中年以上の女性には、いまもその名残りが見られるが、ちょうど御所勤めの官女といったかたちで、優雅というより一種妖艶なスタイルだった。それが女童になると、すっかり近代調のパーマ姿に変ってしまったが、さすがに漆黒の美しさを殺すような真似はしない。四、五年前流行したショート・カットというやつ、ヘップバーン頭や雀の巣は全然見られなかった。その黒い髪に調和するように、黒い大きな瞳が印象的だ。パッチリ見開いた瞳が、艶やかにうるんで純真そのもの。

南國に似合ぬ肌
優秀な美人系の島

大体この島は関ヶ原の敗将宇喜多秀家一族はじめ徳川中期まで政治犯や思想犯関係の流刑地となっていた。それに、鹿児島や四国近辺の漂流者が居つき、どちらかというと優秀な血統を引いている。「来てたもうれ」(来て下さい)「これを召あれ」(お食べなさい)というような殿上言葉が、いまも残って方言になっているのは、そのためだという。そして、美人系であるのもやはりこうした流刑者の血を引いているためであるらしい。おまけに南国娘に似合わず、ハダの色の白さが奇妙なくらい美しい。こういう美人は銀座を歩いても、ざらにお目にかゝれるものではない。それが、白いブラウスにチェックのスカートという一様に気の利いたスタイルだったから、その姿かたちだけは東京娘と少しの変りはないわけだ。

島の女童は人見知りをする。週に二回の飛行機便、五日に一度の船でたまに東京から客がくる。女童たちは珍しさ半分、人懐しさ半分で、三人五人とかたまって見物?する。話かけようとすると、さっと家のなかへ飛び込んでしまう。それも、一度顔なじみになると、あとは信じ切って疑わない可憐さだ。

残る"通い夫"
変った夫婦生活

変っているのはこの島の夫婦生活である。結婚式は内地と変らないが、式を挙げたあとの約一年間は別居生活を続ける。もち論夫婦となったからには、夜が一緒でなければ意味ないが、それも男の方から女の家へ通うシキタリと相なっている。太古時代がそうであり、南方の島々にはいまもあるという母権制度が、八丈島に伝わり残って、現在でも"通い夫"がみられるそうだ。こうして女の方が「これなら」と思うまで通わなければならないのだから、八丈島の男たるものマコトにつらい話。八丈女は情熱家である。一度火と燃え立ったら、とことんまで燃え尽きなければ納まらない。そのかわり、三十になっても、四十になっても、これと思う男にぶつかれば、夫も家も棄ててかえりみないすさまじさ。それが案外家庭悲劇にもならないところ、それでも女童たちは「やっぱり島の男が一番よかじゃあ」てなことを仰せあって、ほとんど島から出ることがない。そして、島チュウ(焼酎)をあおって春山節やショメ節に踊り狂う青年のなかで彼女たちも乱舞する。マンボは知らないが、太鼓ばやしがある。むかし流刑者が刀を取り上げられたウサ晴らしに編み出したという二ちょうバチの太鼓ばやしは、その鮮かなバチ捌きと軽快なリズムで、ちょいとしたジャパニーズ・マンボでもある。黄八丈のたもとをひるがえして、太鼓ばやしに手拍子合せる女童の姿…自然に生きる美しさであった。

写真=上=八丈女童は踊りが大好き、民謡はおけさもあれば伊勢音頭も入る。=左=港にたゝずむ大島アンコ、処女のしるし催促簪にご注意。=下=蘇鉄植物の下でほおえむ八丈女童。

娘はサイソクまげ
〈大島〉厳格な規格、アンコ・スタイル

八丈島から北へ約九十㌔、御神火燃えるご存じ伊豆大島のアンコは、八丈女童が思いのほか近代スタイルなのに比べると、大島絣にあねさん冠りのいわゆるアンコ姿をいつまでも捨て切れないようだ。尤もアンコというのは"姉子"のなまりで、島では女全体をこれを聞きかじって"じょうろさん"とよんだところが、返事もされなかった。ユメ誤るなかれ…である。そのアンコ姿も、処女と人妻とでは大変な違い。まず髪の形 [illegible]

観光的な存在

[illegible]

腹の立つ商魂

[illegible]

…モご親切なこと…と、よろこび勇んで行くと、それが小さな宿屋だった。これではご親切も何もない、客引きであったかと怒ってみても始まらない。小人形は彼女お手製のもので小遣い稼ぎだそうな。げにも商魂たくましきアンコ気質ではあった。

噂の人 七十五日
ハニー・ロイさん

[illegible]

婚約者を得た微笑み
闘病五年、銀座に往年の面影

[illegible]

モダン歳々記
有島武郎情死す

大正十二年七月八日、白樺派の作家有島武郎が有夫の「婦人公論」の女記者波多野秋子と軽井沢三笠山の別荘浄月庵の一室で心ゆくまで「最後の営み」をしたあげくに情死を遂げ、一ヵ月後のこの日、腐らん死体となって発見された。

武郎が失踪したことは生馬、弴ら兄弟によって秘密裡に捜索されていたが、一般の彼の小説の愛読者はこのニュースをきいて唖然とした。脚本「死とその前後」で亡き愛妻への愛情をのべ、「小さき者へ」で子供達への愛情を語り、個人雑誌「泉」で正義と愛を説き所有地を解放した人道主義者が、こともあろうに人妻と心中するなんてことは想像だに及ばなかったことである。だが、そうしなければならなかったところに、彼のヒューマニズムの純情があったのだろう。簡単に脆いと形容できるような生き方でその生命を終った。

進歩的な紳士である彼は「愛は惜しみなく奪う」という恋愛観を持っていたが、その文章は教科書にものるような世間での買われ方をしていた。その彼のつまずきである。彼にとっては躓きであっても一般はこれによって人間の生き方の決して常識的でないことを教えられたのである。(鮭)

あすの運勢
高島象山 =七月八日=

▲一月生―何事も理想と現実と相反し徒労に帰し易い外出よくない
▲二月生―万事順調で思いが叶い商売繁昌利達あり移転旅行はよし
▲三月生―物事の難事解決して安心立命あり稼業職業栄達に赴く也
▲四月生―物事油断より自滅し怠慢より失態を生じ易い警戒すべし
▲五月生―順調に進展し思い叶い多幸なり移転造作旅行は差支なし
▲六月生―物事消極的に堅実に活動すれば次第と向上する奨励想し
▲七月生―放慢にして事を乱し目的を誤る慎重に進退し警戒すべし
▲八月生―多事多用で苦労はあるが商売繁昌し利多し信を増すなり
▲九月生―周囲の後援もあり進取的政策を立て有為に向上利達あり
▲十月生―稼業を守れば無事の義あるも不意の事故にあい易い注意
▲十一月生―何事も細心の注意を払い自然の成り行きに任せ幸多し
▲十二月生―何事も気安く都合よく進み運気開け利達栄昌に赴く也

刑通姦
南米奇聞

[illegible]

世界奇譚
(ポルトガル)

[illegible]

浪人街道 (216)
木村荘十　野口昂明画

天守閣 (七)

「おそれながら、浅香啓之助…」

「待て」白岡の城主はそれをおしとどめた。

「浅香啓之助は行方不明の元寵臣…そちは幼少の折、黒獄山の奥深く、神隠しに遇ったこの広義が嫡子、啓義であろう。伊織、そちが多年山中に籠りて捜索せしは、この若者であろうな」

「御明察の通りに御座います。これにてお家も万々歳」

「うむ。啓義、苦しゅうない近う」

「は、はっ」

喜びと涙の親子の対面だった。

白岡の城主奥平広義は、改めて親子揃って祭礼の催しものを御覧になったが、城下町では誰がいうともなく、今日の祭礼の混雑中に江戸の与力、目明しに追われて来た、海賊、密貿、夜盗の一味、本所河内介、堀井帯刀の手下が逃げ込んで、お城にまぎれ込み、御家中のお侍に手向いしたため、悉く斬り捨てられたと噂が立った。

家中、殊に奥平家の兄弟が、党をたてて争ったなどと、江戸幕府に知れるのを防いだ伊織の計らいであった。

こうして国境いで、旅人の通行を禁じていた怪しい武士達も何時か姿を消し、白岡城下は、若君の御帰還を祝って、祭に続く賑いであった。

だが、その華やかな慶びの日夜を笑顔で祝って、身にしみる寂しさをこらえていたのは、綾、美代吉の二人の女性だった。

彼女達には、もう親しい浪人の啓之助はいなかった。まして啓之助さんなどとは遠い昔の人になった。

晴れわたった初夏のある日、緑の平野に銀河と流れる利根川の近くを、供ぞろいも派手に二挺の鋲打ちの女乗物が行く。江戸へ帰る綾、美代吉の一行である。

二人は奥平家の、この礼遇に感激していた。綾は、啓之助様から、どんなお話があろうと、命を賭けて啓之助様を助けた美代吉に恋を譲ろうと思っていた。

が、当のその美代吉は、お艶が命を賭けてもと乗りたがっていたこの女乗物さえもったいないと思っていた。彼女は何もかも諦めていた。

彼女はあの暴風雨の夜、囚われの地下牢で、修理に手籠めにされていた。

(お侍の娘なら、私は舌を噛んで死ぬところだったのだ。啓之助さんが十万石の御大名になる。それを陰ながら見ていることが出来るんだもの、そいだけでも幸福ではないか。あの気立のいい、お綾さまが奥方になったら私は御出入をさせて頂く。私にはそれでも分に過ぎている)

そんなことを考えていた。

が、駕籠側についている狂斎と佐吉は白岡家から預った大枚の金をしっかり胴巻につけて、綾の輿入のことや、美代吉に深川で立派な料亭をやらせることについてしきりに相談していた。

「どうやらもうすっかり夏景色だな」

「田舎もようがすね あっ、あいつ奥医者の玄以」

「うっちゃって置きなさい。一札とってあるから、手も足も出せやせんよ」

狂斎はいきまく佐吉をおしとどめた。

「時に、むささびの三次がかくしていたという大殿様の御墨つきはどうなりました」

「そんなものはありゃァせんのだよ。お艶は、それで修理を釣っていたんだが、そのためにまた殺されたのさ」

狂斎はそういって、新しい運命を乗せた二つの女乗物の方をちらりと眺めた。(完)

明日から 東海毒婦傳 青とかげ 野沢純作 土端一美画 連載

ラジオとテレビ 7日(木)

	★NHK第1★ 590KC	★NHK第2★ 690KC	★ラジオ東京★ 950KC	★日本文化★ 1130KC	★ニッポン★ 1310KC
6	00 ❶子供のシンブン❷彌次喜多道中記 北原文枝 25 物語「オテナの塔」	00 英語会話◇今日の市況 30 三球受信機の組立 40 やさしい科学大石二郎	10 東西こぼれ話 小金治 15 スイート・コンサート 25 おしゃれクイズ	00 劇「少年宮本武蔵」 10 劇「すずらん太郎」 25 バンド・タイム	00 劇「ポツポちゃん」 20 劇「少年探偵団」 35 歌謡百貨店
7	15 録音ニュース 30 浪花演芸会 波呂・次呂 多玉枝・成三郎 光晴・夢丸	00 名曲鑑賞 聖譚曲「メシア」より合唱曲集 30 友への手紙 教育評論家 古川原・資料	10 録音ニュース 20 平岡養一の木琴独奏 30 南太平洋音楽特集 萩田敏夫 ナンシー梅木他	00 録音ニュース 10 歌 ダイナ・ショア 30 私は人気者 灰田勝彦 近藤圭子 前田六郎ほか	00 ラジオ夕刊(耳の新聞) 20 花のステージ水原正弘 30 浪曲明治維新「西郷と侠妓」梅中軒鶯童
8	00 歌の花ごよみ 笠置シヅ子 春日八郎 豊吉他 30 劇「由起子」津島恵子 木村功 奥田康子ほか	05 きょうの国会から 20 プロ野球ナイター実況 西鉄対毎日(平和台球場より)松本アナ	00 劇「モリシゲの東京無宿」中村メイコほか 30 のんき裁判 金語楼 ジョージ川口 中村八大	00 浪曲学校 天中軒雲月 井上幸男 三笑亭夢楽他 30 私と貴方の三つの歌 中村八大 中村哲ほか	00 漫才学校「動物園の巻」蝶々 雄二 いとしほか 30 愛諸者ゲーム 中島健蔵 ペギー葉山 豊吉他
9	05 ニュース解説館野守男 15 のんきタクシー「代役張り切る」突破 一路他 40 八千万人の屋根	00 放送詩集 岩佐東一郎の作品より「梅雨晴れ」他 15 劇「人間工場」柳川清 広野みどり 楠義孝ほか	10 歌謡漫談 川田晴久 ダイナ・ブラザース 30 劇「たゞひとりの人」新珠三千代 花柳武始他	00 ジャズゲーム ジェームス 松本英彦ほか 30 ワンダフルばあちゃん 松葉蝶子 東五九童ほか	00 声のスター・コンテスト 鮎川十糸子ほか 30 新平家物語「平治の乱」徳川夢声
10	15 長唄「八重霞賤機帯」佐登代 佐志津 綾子他 40 落語の聞き方 金馬	00 ❶初級英語 小野嘉寿男❷上級国語 増淵恒吉 45 気象通報	05 きょうのニュースから 15 坂本政一とポルテニア 30 伸びゆく子供たち	00 大学受験夏季実力講座 英文和訳 岩田一男 30 解析(I)田島一郎	00 劇「南無三宝」本郷秀雄 35 民謡めぐり 市丸 宇都美清 榎本義佐江
11	10 原子力平和利用会議を前にして 原礼之助	05 協定調印後の日中貿易 20 水虫の治療 高橋吉定	10 芸術百話「女流作家の行き方」円地文子ほか	10 木曜リサイタル 独唱フランセス・カサード	15 報道特集「ニュースの裏枯れを語る」荒垣秀雄

テレビ

★NHK★ ◆6・00 七夕童話集◆6・30 スイスからユーゴへ◆7・10 短編映画「セイロン島」◆7・30 大阪千一夜「足を出した幽霊」◆8・00 私の秘密 渡辺紳一郎◆8・30 歌の花束 近江俊郎 真木不二夫ほか

★NTV★ ◆5・35 新橋演舞場から西崎緑舞踊発表会中継❶長唄「南蛮屏風」❷高野物狂◆7・30 テレビ千一夜「男優アナ」◆8・00 日舞おさらい会◆8・15 映画「ここに泉あり」◆9・15「白馬岳は花盛り」

★KR★ ◆6・00 シネマ案内◆6・20 映画「歩く文明」◆7・00 タレント・スカウト◆7・40 映画「生活と水」他◆8・50 東京宝塚劇場から 中継・東宝歌舞伎「帰つて来た男」長谷川一夫 中村歌右衛門ほか

あすの番組

7・45 朝の訪問小沢信三郎	8・00 療養の時間近藤宏二	8・20 ラジオ・スケツチ	8・25 おしゃべりレデイ	8・10 お早ようブーちゃん
8・05 名演奏家の時間	8・30 大作曲家の時間	9・45 その後どうなつたか	9・30 劇「青春のある所」	8・45 お好み歌謡曲
8・30 六代目の思い出 田村秋子 中村伸郎	9・00 きょうの学校放送	10・10 名作「みづうみ」	10・40 劇「君ひとすじに」	9・00 劇「サザエさん」
9・35 ロシア民謡集	10・15 観察ノート星の物語	11・35 音楽のスーツケース	11・35 連続劇「東京の人」	10・00 やりくりチヨ子さん
10・05 けさの話題 小秋元	10・45 世界の動き吉田悟郎	12・30 落語「社長の電話」	12・00 痴楽お笑い大学	11・00 連続劇「悦ちゃん」
	11・45 浄瑠璃の歴史	1・30 子供の見た家庭	1・15 漫才 鶴夫・亀夫	12・00 浪曲「月見の宴」重松

☆皇太子殿下がお好きなカレーとは？
=ナイル・レストラン=

ビバリ・ボース、チャンドラ・ボース両巨頭と共に、インド独立に生命を賭け、幾度か死線を越えて遂に栄冠を祖国にかかげ、自からは日本に渡って一レストランのマスターとして日印親善かげの力となっている人がある。

三原橋歌舞伎座別館向いの「ナイルレストラン」のマスターA・M・ナイル氏がそれだ。レストランのほかインデラ(月よりの姫君)カレー粉の本舗ナイル商会の代表取締役でもあるのだが、大の親日家で、日本人に本当のインドカレーを食べさせるのが念願だという。この味は開店忽ち東都の話題となって、東宮御所御用となり、皇太子殿下の愛用となった。"皇太子さまはカレーがお好き"とは既に国民の常識だが、ただのカレーではない。ナイルレストランのカレー、つまり「インデラカレー粉」使用のカレーなのだ。夏の味覚として忘れられない味である。

☆中国服のお色気娘
=夏期サービスの「チェロ」=

真夏の中国服はスッキリした魅力では世界一といっていい。変にゴテつかず色気があって、しかも涼しげだ。これを中国婦人が着ると天下無双となるが、日本人でも下着から気をつけて、そのつもりでセンスを磨けばよく似合う。もともと、和服とも共通するのが腰の線のお色気だ。その意味でこれから中国服を着ようと思うご婦人や、着せたいと思う殿方は、銀座四丁目、天賞堂横通りの喫茶店「チェロ」で、十二人のお嬢さんをトックリ観賞するといい。よく似合うのはマダムのお仕込みだ。千本隆のチェロ演奏は七、八の二ヵ月休演するが、その代りLPのクラシックがあって、飲物は一割引だという。冷房完備の素敵な店だから 眼の法楽にもうってつけ。

☆頬っぺたの赤い娘がシエーカー振る
=新橋の山小屋「はた方」=

山小屋風の酒場として若い人に人気のある「はた方」は、新橋は通称カストリ横丁の中にある。しかし、本当は山小屋風なのは二階だけで、下はちゃんとしたカウンターのあるバーだ。一種独得の親しい感じは、一、二階とも共通だが、可愛い娘がシェーカーを振ってくれるのは一階の方。頭のハゲかかった中年紳士?がパチンコの景品で口説きにかかったり、青年が彼女を掴まえて哲学論を吹っかけたりしているホホエマシイ風景のみられるバーだ。値段は田舎の酒場級だが、酒も料理もなかなかうまい。この点カストリ横丁では良心的な店といえるだろう。

電(43)六七五一番

浅草に又ぞろタックル女給

通れない道路 ロック・センター

陰で糸ひくボーイ

リンチ恐さに必死の客引

袖とられたら最後 ビール一本九百円

[illegible]

…うものなら両袖は女給たちのたくましい力でつかまれる。「金がないよ」といえば「お店だけでも見てらして」と連れこまれ、結局飲まされてしまう。この強引さから月収三万円以上もあげるその道のベテランもいるが、押しの弱い女給は固定給がなく、売上の一割と歩合だけなので、客引にも自然力がこもるというわけらしい。

○…値段はコーヒー一杯(席料、サービス料共)六百円、ビール一本九百円という相場だが、一本ふえるごとに値はぐんとかさんでゆく。いままでのところセンターに連れこまれた客はどうやら金を払っており「身ぐるみはがれた」とか「暴行をうけた」という例はないが、ほとんどの客は投書や交番にその暴利を訴えてくる。しかしその後警察で詳しく事情を聞くため呼び出しても後難を恐れてか一度も来たものがない。

○…最近は客引積極策としてボーイが斥候役となり、めぼしい客を見つけると女給に眼くばせをする。指示をうけた女給がすかさずタックルにかかるという状況で、客がとれない女給はあとで支配人バーテンにリンチを加えられるような店もあるといわれ、逃げ出そうと思っても監視が厳しく、またボーイと肉体上のきずなから抜け出せずにいる女給もあるという。浅草署では暴力客引のもっともひどいといわれているセンター内のカフェー「A」を都公安委員会に行政処分方を上申している。上申などは異例のことであり、これによってもセンターの悪質ぶりがうかがわれよう。悪質な業者はどしどし取締るといっているが、センターの暴力女給は後を絶っていないようだ。

◇センターの某店から逃げだしたJ子さん(二三)談 あのころの生活を思い出すとぞっとします。毎夜のリンチを思うと否応なしに客引をしなくてはならないんです。給金も殆んど貰えず地獄の生活でした。

◇浅草署森主任談 センターの中にも善良な業者もあり、ちかごろはやゝ自粛しているようだ。リンチのことはしらないが、悪質なものは徹底的に取締る。

ふし穴

◇コーヒーを飲みに入ると、話相手にオンナのコがつく—という「サービス喫茶」システムの店は、銀座Aが第一号の名乗りをあげて以来流行の兆にあるが、こんどは「サービス・ビヤホール」という新手が生れた。ひと口にいえば話相手のオンナのコがサービスにはべるビヤホールだ。生ビールが百五十円でビヤホールよりチョッピリ高く、サービス料一割をとられるが、マネジャーにいわせれば「アルサロより安く、しかもドレスの美人がつき、ビヤホール並のお値段でキャバレーの雰囲気を楽しんでいただくもので…」とモミ手をした。どこまではやるか? だが、いまのところ神田駅前のB以外は見当らない。

サービス・ビヤホール

◇社交場関係の機関紙に最近、その道のベテランがサロン嬢の新人教育問答を書いていた。ちょっとイケるので要点を紹介…

「はじめての客なのでモジモジするばかりなんですの」「それはいけない。初めてでも十年の知合いのように話合うのがサロンの特徴です。あなたの兄さんがお友達を連れてお宅に帰り、ビールでも出したとする。そのお友達と初対面でも、席に出たあなたはいつまでも固くなってはいないでしょう」「サロンではエロチックでなくては駄目でしょうか」「ゆうべはサロンがエロッぽく見えたでしょうね…例えばお兄さんがカフェーで月給の半分を使ってお母さんに叱られる。それは女子大のガールフレンドからは得られない性的魅力、性的雰囲気に魅せられてカフェー遊びをしたいのです。紅、白粉、酒、音楽がかもしだす甘美さがお兄さんの心をとらえるのです。しかし、イットといっても、性欲的魅力ではありませんよ。…性的な魅力を大胆に発揮することがよき社交係への道です。キレイ[illegible]しさの表現、[illegible]れば、あなたが[illegible]家庭生活をどん[illegible]しくするかしれ[illegible]さて、お客の[illegible]が…

◇これは中元[illegible]荒川区熊の前の[illegible]に曰ク「うっかり夫人[illegible]みます。あまり[illegible]うっかり買って[illegible]とおわかりにな[illegible]持ち下さい。当[illegible]時の一割増でお[illegible]す」読んだおか[illegible]をヒネっている[illegible]題。(貫)

川崎で20件目の放火

【川崎発】七日午前一時半ごろ川崎市宮前町一八大衆食堂福田甚之助さん(四三)方軒下の日除けが焼えているのを家人が発見、一尺五寸四方を焼いて消しとめた。川崎署では現場がまったく火の気のないところから放火とみているが、これまで同署管内で続発した放火の手口(新聞紙を丸めて火をつける)と同様で、川崎市内の放火はこれで二十件となった。

横浜の寮で まぐろで49名中毒

【横浜発】七日横浜市衛生局への報告によると、六日夜同市鶴見区上末吉町五九自動車鋳物株式会社第三青年寮で四十九名が発熱して下痢などの中毒症状を起し、うち七名が重体で生麦町一三二五真田病院に収容された。鶴見保険所では同寮の二百名が現在給食を受けており、同日昼食のマグロのサシミが原因ではないかとみている。

連出して殴る 池袋飲屋のダニ

池袋署では七日朝までに渋谷区宇田川町一一六バー「クルミ」のボーイ住谷清(二二)世田谷区池尻町学生信田高典(二〇)豊島区池袋二の一一四四飲み屋「スワニー」経営者青木護二(三〇)同「貞奴」新井照彦(二二)の四名を傷害容疑で検挙し、池田某、清水某の二名を同容疑で追及している。調べによると住谷らは四日午前一時半ごろ豊島区池袋二の一一四四復興会マーケット「寿」で飲酒中の台東区谷中清水町五西原方医師佐野芳郎さん(三七)が友達と飲酒中いんねんをつけ、佐野さんだけを近くの空地へ連れ出し六人で殴り顔に二週間の傷を負わせ気絶させた。この一味は渋谷で営業停止をくらい、池袋に移ったもの。

血ぬられた七夕飾り

妻子のノド一突き 元消防署員が一家三人心中 練馬

ツユが明けようとしている七夕の七日朝、司法試験の受験勉強のため神経衰弱になっていた元消防署員が、小学教員の妻と、今夜の七夕を楽しみにしていた三つになる一人娘を刺し殺したうえ、自分も返す刃で心臓を一突にしたという一家心中が練馬区に起った。

七日午前五時十五分ごろ練馬区南町二の三六一二無職山名寛二さん(三三)方奥六畳間で、山名さんが妻の綾子さん(三〇)と、長女典子ちゃん(三つ)のノドや胸を出刃包丁と西洋剃刀で突き刺して殺し、自分も心臓を一突にして血みどろになってノタウチまわっているのを、物音を聞きつけた女中の長谷川京子さん(一九)が発見、練馬署南町交番に急報した。同署員が現場に駈けつけたときには部屋中は血の海となり、親子三人ともすでにコト切れ、部屋の隅に立ててあった典子ちゃんの七夕のキレイなお飾りにも血がとび散って、綾子さんが典子ちゃんをかばうように死んでいる姿は涙をそそった。

同署の調べによると山名さんは二十三年十一月九日消防学校に入学、二十四年麹町消防署を振り出しに消防庁予防部調査課、さらに深川、下谷各消防署を経て、二十八年四月消防庁教務課に転じてから東大に委託生として約二年間派遣され、本年四月八日委託生も終り、四谷消防署に転じたが、司法試験を受けるため同月十一日退職したもので成績は優秀な方だったと消防庁ではいっている。

家庭は妻の綾子さんが近くの豊島区要町三の三九千川小学校に二十六年四月から教員として勤め、一年生を教えており、明るい性格で評判もよく、六日午後綾子さんが学校から帰る途中同僚の先生に「今年の夏休みはユネスコ村にゆくんです」と楽しそうに語っていたという。綾子さんのハンドバッグには一万円が入っていたが、生活は苦しくなく家庭も円満だったという。自殺の原因については遺書はないが、難関の司法試験が近づくにつれて平素口ぐせのように「弁護士になるんだ」といっていた山名さんが、試験準備の進まないのを苦にして最近神経衰弱気味で、アドルム中毒になっていたところから、発作的に無理心中に及んだものとみられる。

なお、山名さんは本年三月東大を受験したが失敗、それを非常に気にしていたといわれ、さる三日郷里の鳥取から山名さんが帰京後、母親から綾子さんあてに「神経衰弱ではないか。自殺しないかと心配です」という意味の手紙がきていた。凶行に使った柳刃の刺身包丁はその際鳥取で買ったものとみられる。

練馬一家三人心中の惨劇の家

上から山名さん、妻綾子さん、長女典子ちゃん

長野でも母子三人心中 戦死の兄の霊が呼ぶ?

【松本発】七日午前五時ごろ松本市芳川区平田地先篠の井線線路上に母子らしい三人の轢死体があるのを下り四〇九列車機関士が発見、松本署に届出た。同署の調べでは松本市寿区竹淵農業赤羽文夫さん妻まさ子さん(三二)と長男重信ちゃん(三)[illegible]ちゃん(三)の母子心中と判った。家に残された遺書によるとまさ子さんの実兄礼一さん(昭和二十年戦死)が"墓の下から呼んでいる…"とあり、まさ子さんは最近神経衰弱気味で二児を道づれにしたものらしい。

夏枯れなんぞ吹っ飛ばせ

デフレ商売 ③競売と競買

「さァ、どうだ、このズボン。グレイのギャバジン…どう踏んでも三千円は下らないよ。これが」と叩き棒でバタンバタン板を叩き、「たったの千円だ。チエッ、誰も声を掛けねえのか。よしッ!」バタン「半分の五百円だ。四百円! 三百円! えぇっ、面倒臭え」バタン「ほらっ、二百五十円だ。どうだ、二百五十円で持ってかねえのか。よく〜ゼニのねえヤツらばかりだ」とだんだん口が汚なくなる。それが却って面白いのが叩き売りである。

表看板には「問屋倒産ニ付キ本日限リ」とか、「メーカー直送驚異的廉売」など大きく書かれてあるが、実は毎日同じ店舗で叩き売りをしているのがこの競売屋である。メーカーはメーカーでも「叩き売り用のメーカー」で、尺足らずの布地や、「クツ下五十円」が片一方だけだったり、洗濯したら一尺も縮まるギャバジンだったり、なるほど まさに「驚異的」である。大抵三倍ぐらいの値をつけてから叩き落していくが、叩いた値で売っても損はしないように初めから出きている品物ばかり。それをサクラが「買った」「買った」と景気をつけて、一円でも安いものに飛びつこうとする悲しい庶民の心理をその雰囲気に巻込んでしまう。

そういう記者からして、ちゃんと箱に入ったオープンシャツを三百円也で買込んで、意気揚々我家へ立戻って着てみたところ袖丈は ともかく丈が 短かくてスソがズボンに 届くか 届かないくらい、とても人前で着られるものではなかったという涙ぐましい話がある。それにも拘らず、今日も浅草、上野、神田など盛り場のあちこちには威勢のよい「さァ、買った!」の声がかかり、相変らず人だかりがしているのはやはり不景気のなせるワザであろう。

滞納の店を奇襲

差押え→競買の手数をはぶき 税務署と馴合いの買人

この叩き売りとは反対に、更に知能的な競買屋があるのをご存知だろうか。本来、競売とはたとえば事業税を納めないで、区の税務課から執行吏がきて或る物件を差押えると、それを金銭に換価するため、競買人に買入価格を申立てさせて、最高の申立者に落すことである。ところが、浅草の某道具店で税金を滞納していると、いきなり競売人ナニガシなる人物がやってきて「お宅の品物が差押えになって、それを私が落札したからその代金を払って欲しい」とのこと。道具屋の主人も突然のことでビックリしたが、よく考えてみると、滞納処分で自分の家の品物が差押えられ、赤札付きで持出されて、競売に付され、競買人がそれを買落し、さらに公売に出すのを自分が買戻す—という回りくどい段取りを、お役所と馴れ合い(?)の競買屋が品物はそのまま、書類の上だけで済ませて、その道具店が買戻す金額を要求してきた訳だから起って便利だとばかり代金を払って、差押えは受けないと同じ結果になった。よく考えてみると、競買屋は何もしていないんですがね。

同じ知能的なモウケ商売に、質流れ屋がある。衣料はアメセコ(アメリカ中古)があるが、時計その他はここで安く買えるので大いにウケている。質屋が古物商や金融業者としての許可を受けて、質屋営業法に触れないようにして、同種の店を別に出している場合である。【写真は叩き売り】

エムさん 216

七夕さん

○…今晩は七夕さま—各学校や幼稚園ではお飾りつくりに大はしゃぎ。元気一杯大きな口をあけての"お星さま"の合唱が流れていた。街ではロマンチックな七夕さまも"商魂"に利用され、デパートも商店街も売らんかなの七夕飾りで大賑わい。

○…今宵天の川のほとりに"牽牛織女"の二星が美しく輝く。ところが憎らしい前線が関東から九州を通って中国大陸に届くほど横たわっているため、日中午前十時には三十一・六度に達したお天気も夕方には崩れて「関東地方では"出会いの場"はほんの少ししかみられないかも知れません。まして関西一帯は豪雨でしょう」とつれないお天気相談所の話だった。

七夕を喜ぶ幼稚園児たち、六本木にて

経験者からも意見

きょう衆院法務委で 売春法案の公聴会

売春等処罰法案を審議中の衆院法務委員会では、七日午前十一時から青線代表茂木正策(新宿歌舞伎町)と、吉原から逃げて藤原道子参院議員のところにきた近藤春子池上よし子、長崎県貸席業組合従業婦組合長浜田八重子、吉原カフェー喫茶組合理事長鈴木明、社会事業家伊藤秀吉、東大医学部教授市川為二、売春問題対策審議会委員山高しげり、評論家神崎清氏の九参考人からそれぞれ意見を聞いた。

売春法案は社会の実状を無視した行当りばったりの法案であり、これが通るとその日からわれわれの生活の根底を失う(茂木氏)

営業時間が長く食事も悪く自由行動が許されないので私はやめた(近藤さん)

月に十一万から十二万ぐらい稼ぎその四分を貰うから四—五万位になる。私は一ヵ月働いたが八万円の前借があったから手許に残ったのは正味五千円位だった(池上さん)

私は親子心中一歩手前でこの職業を選んだが、売春婦がなくなるのは大変結構だと思う。しかしこの法案は机上論で割切れない点が多い。法案が通ると私たちは保護施設に追込まれるが家族を養っているものは一体どうなるのか(浜田さん)

など色々の意見が述べられた。

運転手斬られる 麻布に自動車強盗

六日夜十一時五十分ごろ港区麻布東鳥居坂町五先で、荒川区日暮里七の四五六帝都タクシー荒川営業所運転手和田正昭さん(三五)は、新橋烏森から乗せた二十五、六歳、色メガネをかけた男にいきなり後からジャックナイフ様のもので左脛部を斬られたが同運転手は車外に飛びだし、助けを求めたので賊は料金百七十円をふみ倒して逃走した。麻布署で捜査しているが、和田運転手は全治二週間の傷。

森講師は青酸自殺

文京区本富士町一東大理学部一号館の三階教官室で自殺した同学部数学担当講師、理博森明氏(三〇)の死因につき、本富士署で調べたところ、遺書には「アドルムを飲んだ」とあったが、青酸反応試験の結果、青酸カリとポリドリン(睡眠剤)による中毒死と判明した。青酸カリは同氏の机の引出しに二〆入り容器に約半分残っていたところから十五、[illegible]量をのんだもの[illegible]

大岩勇夫氏

[illegible]摂護腺炎のため加療中肺炎を併発[illegible]五十分死去した[illegible]十四年東京法学院[illegible]院議員当選。[illegible]和二年第十二回[illegible]同十三年退職。[illegible]

あすのスポーツ

[illegible]

ストリップショーの醍醐味

浦和「スター」のゆかたまつり

ストリップショーというものはほんとは劇場なんかで見るものではない。それなりの雰囲気の整った、いうなればキャバレーかナイトクラブのような場所でみるものだ。第一こっちがシラフではないし、周囲には眼もアヤな美女のムレ、赤や黒の配色と彩光でどんなファンタジーにもひたれようというわけだ。加えて酒が安ければ申し分ないが、浦和でみるならさしずめ駅西口交番横を入った所にあるキャバレー「スター」だろう。ストリップショーという企画は初めてというから、普通のダンサーまでが上ってしまって、何やらモドカシげな風情をする。意地悪くジラして[illegible]なかなか[illegible]娘がいて、[illegible]和ならでは[illegible]子の愛嬌は[illegible]の逸品だ。そのあとは[illegible]うから、[illegible]テーブル料[illegible]二百円。安[illegible]

バーテンの芸術品

秀逸な味と香りの『新橋トリスバー』

「サントリー」とは太陽(サン)と社長鳥井氏で出来上った複合名詞であるとか。どうりで英語の辞書をいくらめくってもあるわけはない。ところでそのサントリーは今や世界の名酒と謳われて、輸出もお盛んだというが、その姉妹品のトリスはどうか。製法、原料は全く同じで、ただ貯蔵年数に開きがあるだけだから勿論悪かろう筈はないが、腕のいいバーテンにかかるところ[illegible]

続 情炎の千代田城 (170)

岩崎栄　寺本忠雄画

天主の怪(三)

大事に至らず、縁板の裏側を焦がしたくらいで、火事は消し止めたのであったが、れきぜんとした放火の証拠が縁の下から見つけ出された。

大きなアワビ貝に、油にひたした綿を詰め、それに火をつけたものらしかった。

絵島はそれらの証拠物件を、手ところな木箱に納めさせて、物置の奥に置いた。そして、一同に、

「すこし考えるしさいがあるによって、今夜のことは、よその局に洩れぬよう、一さい言外は致さぬように、よろしいか!」

といい渡した。そのあとで、美登利だけを自分の部屋に呼び入れ、

「どうして、おまえはあの火に気がつきましたかえ」

と訊いた。美登利はシッカリしたことばで、一ぶしじゅうを告げる。

「では、たしかに人間の声であったかえ」

「はい。それが、どうもわかりかねます。なにゝ致せ、寝おぼれの耳にござります故」

「女の声で?」

「はい、そのよう[illegible]聞こえました」

「狐の啼いた声は、わたくしも聞きました。あの囁き声で、わたくしは眼がさめたのじゃ」

そして、暫くの闇、何か思案のていだったが、

「いずれにしても、けなげな立ち働き、うれしいと思いますぞ」

「おそれ入ります」

夜が明けてしまった。さて、きょうは大変な日である。右近の方御着帯のめでたい当日。

五十三間のお馬場では、打球の催しがあるし、芝居狂言も、これは将軍の御内命をうけた狂言作者中村清五郎が新らしく仕組んだ伊達騒動。(これは先代萩と同じものだが、時代を室町にとり、足利家の家庭騒動に仕組んだものである)

大奥何千の女中、上はお年寄から、下はお末のもの、お多聞に至るまで、大盤ぶるまいがあるのだから、お月見やお花見などの比ではなく、大奥ぜんたいが、朝から何かに酔い揺れ、さんざめきに浮き立っているのだった。

絵島も早々と出仕して控えの間に詰めていた。すると、交竹院から、面会の申し入れを取次いで来た。

(あゝあのことだ)絵島の瞼に、長井半六という美男の面影がイキイキと浮かび上ってくる。切れ長の男らしい眼に溜めた涙が光っている。(何とかとりなしてやりたい。右近の方を動かして—将軍に。出来る、目下の情勢ならばわけはないであろう)

「早朝から、御都合もかえりみませず——御迷惑かとも存じましたなれど」

「いゝえ、あなたが、そのような気がねは御無用でございます」

「ありがたき仕あわせ。先日はまた、せっかく御静養のところを失礼仕りました」

「いえ、そのせつのこと、気にかけて居りますが、いずれこのおめでた騒ぎのあとで」

「なにぶんともによろしく。長井半六はことごとく、あなたさまの御立派さに感じ入って居ります」

「まァ、なにをおっしゃるやら…」

笑ったが、胸の底が何となくほのぼのと昇くなる気持だった。

「ところで、本日はまた、別のことにて、いさゝかお耳にお入れ申したく……」

ギロリ! とした眼つきを、部屋子や家来たちの方に向ける。絵島がこゝろえて、

「皆、暫時遠慮を!」

三、四人の家来が出て行くと、交竹院はズッと座をすゝめて来た。

上半期 振わなかった松竹

自信の大作が受けぬ　調査室の数字の黒星?

昨年は「女の園」「二十四の瞳」「この広い空のどこかに」などの佳作を出し、しかも興行的にヒットした松竹では、本年に入ってからもう半年過ぎたのに大した佳作も、またヒット作も出ていない。従来大船が得意としたメロドラマも「君の名は」の大ヒット以後これぞというものは見当らず、昨年あたりから本年にかけて東映調の「鉄仮面」や「怪人二十面相」などのシリーズものもまた歓迎されず、いまではもと〳〵の大船調にもどっている。城戸社長自ら〝二十四の瞳以来の秀作〟と謳った「亡命記」も予期したほどの成績は上げていない。秋にはぞろりと大作を揃えているが、本年前半期はともかく不調だったといえよう。それは何故だろうか—

「本社の幹部が調査室の出して来る数字を過信しすぎて、これなら当るに違いないという、いゝ意味のバクチ性を喪失したからだ」と社内の一部ではいっているが、調査室では「いや、それはちがう。金をかけて必ずしもヒット作が出ていない。その点では撮影所側がもう少し製作費の膨張など自粛すべきではないか。調査の数字の読み方が問題だろう」と反駁している。

さてこの調査室がシナリオ・アンケートなどの形で一般人、学生、映画サークルなどを対象に大々的な調査活動を開始したのは中村登監督の「女の一生」が最初であるが、念入りに調査を行い、その結果に基づき製作にも時間と金をたっぷりかけた二時間以上の大作だったにもかかわらず、結果は予期したほどの数字を上げなかった。その後野村芳太郎監督の「亡命記」にしたところが、松竹として初めての香港ロケまで行い、「君の名は」の国際版を狙った佐田啓二、岸恵子の人気コンビだったが、結果は「亡命記」という題名がピンと来ず、初日の成績は甚だ芳しくなかった。二日目に社長命令で「愕題に〝愛情はすべてを越えて〟の謳い文句を加えろ」ということになった。すでに刷り上ったポスターを棄ててやり直したのだから、大変なものいりだが、これが効を奏したか尻上りに客が入って配収二億は行く見込みがついた。しかし予定は三億と踏んだから、実に一億も目算違いをやったわけである。

「遠い雲」の右から高峰秀子、田村高広、木下監督

何しろゴールデン・ウィークといえば、各社のかき入れどきだが、題名のブローチを着けさせたはなやかな美人コンテストまで行い、有馬稲子の入社第一回と銘うった「貝殻と花」も不成績に終り、松竹大船の若手監督のホープ小林正樹監督の「美わしき歳月」も同様だった、かえって大して期待しない母ものの「母性日記」などが初日だけだが、浅草では各社のトップを切ったというような結果を生んでいる。つまり調査の対象にとり上げた大作、問題作が予想外に振わず、そうでない小ものが案外当るということから、現場では調査室が妙な数字を出したり、幹部筋に変な示唆を与えるせいではないかと勘ぐってもみるわけだ。ところが調査室のいい分では「たとえば昨年春の〝女の園〟ですが製作前のアンケートでは、高峰秀子の主役を適役とは思わぬという人の比率が他の役の俳優に比べて一番多かったという数字が出たんですが、木下さんは敢て自信をもって高峰さんにあれだけの演技をさせ、映画としても立派に成功しました。そうかといってわれわれの調査が現実にはいつも反対の結果を生んでいると思われては心外です。われわれはもちろん私見を混えない結果の数字だけを提供しているに過ぎません」といっている。

大物監督が休み　他社の粒選りに圧倒

さて問題を外部に移してみると、松竹のA級の上に位する監督たち、小津安二郎、木下恵介、渋谷実の三監督が仕事をしてないことが先ず第一に上げられるだろう。このうち目下製作中の木下監督「初恋」はこのほど大阪で行われた調査その他に基づいて「遠い雲」と改題し、渋谷監督は三年がかりの「青銅の基督」を京都で撮影中、小津監督また「早春」に近く取組むことになるが、本年上半期における松竹の不調の原因は結局簡単にいえば、日活を始め、各社が粒選りの作品を出し、観客の眼が肥え出しているのに、松竹はそうした客の期待に応えうる佳作を生み出さなかったということに尽きるようである。

ボクの下積時代 (20)

小石栄一の巻

女の子にモテるわけ　ヤケた仲間からママッ子いじめ

小石監督

[大正] が昭和に変った年　彼は拓大をあっさり退学して映画界に飛びこんでしまった。勿論学校そのものが彼の気にいらないことが中退の理由ではあったろうが、学校側としても小石青年はあまり歓迎するような学生ではなかったらしい。つまり相撲、柔道が十八番で、東都大学中唯一の硬派をもってなる拓大に彼の如く超軟派で文学青年なんて形はまったく水に油だった。といって彼とても今様にW型の色事師でなかった。要するに「ほどがよくって親切で…」という典型的青年紳士であっただけである。

だから彼は映画界に入ってもなかなかの発展振りだった。彼が別にそのつもりもなくてやったことでさえ、女優さんには結構受けるという案配なのである。事実彼は約束をしたら絶対これをスッポカスということはしなかった。遊んだ女性に必ず裏をかえして実を見せるのが彼の十八番なのだ。従って続篇が延々と続くわけで、その頃でも彼には女友達が星の数ほどいたという話だ。もっとも彼にいわせれば「一度お茶でも飲んだ娘なら忘れないというだけで、そう人がいうほどではないよ」なんだそうだ。しかし兄貴分や仲間にしてみればきのうやきょう入ってきた助監督の分際で特別女の子にモテるのは面白くない。といって本人はそれほどでもないにしても、やはり拓大にいたから柔道もいさゝかやれる。腕力性があったし、おまけにこういった神経戦には学生時代からタフになっている。—だから噂話に花を咲かせた連中の方も張り合いがなく、かつまた面倒くさくもなってしまって、ある日戦術だ。

[とこ] ろが彼という男は生れつき心臓に弾力性があったし、

これではどうにも腹いせの方法がないというので、それからは彼の悪口をあることないことセットの隅、助監の溜り場所などでやり出した。彼が入っていくとピタリと雑談がやまる。出て行くと後から追っかけるようにゲラゲラと笑うといったママッ子手打ち式をやろうということになった。しかもその仲介役には映画界の名門でマキノ一家の次男坊光雄青年を頼んだものである。そしてシャンシャンシャンとめでたく式は済んだものゝ、やおら立上った小石青年は「きょうはおまねきにあずかって有難とう。何の会か知りませんがとにかくおめでとうゴザイ」とやったもんだ。これにはマキノ光雄をはじめ助監連中もしばしあいた口がふさがらなかったそうだ。

そして昭和二年彼はマキノプロで「学生五人男」を撮って監督に昇進し、シリーズもの、先鞭をつけ、映画でも裏をかえす義理がたさを見せたものである。

7日の出演バンド
村越一夫とマンボ・キング
渡辺弘とスターダスターズ
唄 ティーブ釜范
大橋節夫とハニー・アイランダース

映画やぶにらみ

第二話と三話がよい…オムニバス「寝台の秘密」=(仏伊合作)

▽…四つのベッドに関するエピソードを合せたオムニバス映画。「七つの大罪」などに似たお色気小話集というべきものだ。第一話「宿泊許可書」第二話「離婚」第三話「リヴィエラ急行トラック」第四話「ポンパドゥールの寝台」となっている。演出は第一話から順にアンリ・ドコアン、ジャンニ・フランチョリーニ、ラルフ・アビブ、ジャン・ドラノワの四人。

▽…英仏伊三人の外交官が運転手とともに、霧の深い夜、踏切番の家に立往生する。この俄か客のために提供されたベッドはただ一つ。そこで四人は霧の晴れるまでめい〳〵取っときのベッド・ストーリーをやる。

▽…第二話、イタリア人(デ・シーカ)がニューヨークに滞任中、うるさい女房から離れようとしてわざわざ離婚斡旋所の若い派出婦(ドーン・アダムス)と職業的な同宿をするが、かえってその若い女に情が移って結婚するノロケ話と、第三話のもと運輸会社のトラックで働いていた運転手(ムールージー)が、たまたま街道でパンクを直してやったブルジョア娘(フランソワーズ・アルヌール)の別荘へ遊びに行って泊った夢の話との二つが、人情の機微を穿っていてまあ楽しめる。

▽…あとの二つは甚だ低調。一流のスタッフ、キャストを揃えていながらつまらないのは先ず脚本に新鮮さがないからだろう。ことにラストの第四話でルイ十五世の愛人ポンパドゥールの使ったベッドという珍しい素材をとり上げながら、かんじんのヒロイン、キャロルがお色気も出し切らず、芝居もヘタで生きていない。それ〴〵の話の連繋が極めて散漫なので、全体の印象までうすまった感じだ。キャロルの使い方は、文学的な題材が得意なドラノワ監督には苦手とみえる。(透)

【写真は第四話、キャロルとベルナール・ブリエ】

新劇だより

[歴史座] 第一回公演として、セルバンテス作一幕笑劇「恋の見張番」を曽志崎信二演出で、また森田草平原作「細川ガラシャ夫人」三幕を島悠二演出により、七、八の両日在原児童会館で上演する。出演者は村田杏取正紀、古沢広、柏原武蔵、小川徳一郎、平野優子、石田二郎、水上啓子など。開演六時。入場料一〇〇円。

[新協劇団] 五月の「蛻変」に引続いて、同じ中国の現代作家曹禺の「明るい空」四幕八場(黎波訳)を村山知義演出で、十七日までの十二日間、神田一ツ橋講堂で上演する。主な出演者は中村栄二、寺島アキ子、高橋正夫、加茂嘉久、今橋恒、島田屯、保科三郎、阪口罪、川副博敏、清洲すみ子など。開演六時、土、日マチネー一時。但し八日は休演。指定席二五〇円、自由席二〇〇円。

[劇団四季] 第一回実験劇場、創作劇研究公演。鐘川

都々逸

石井きんざ選

野暮な奴だと笑えば笑え　家じゃ寝酒が待つている　中野・相崎大華坊

今宵は厚化粧とつてり厚く　存分甘える下心　大田・鈴木一正

扇風機の男と年増　熱海で下車して気をもませ　国分寺・佐藤千恵子

酔えばこのまま寝る気安さに　初夏よし酒よし女よし　船橋・稲村三久

怖い物見たさネオンを眩しく除けて　片隅通った鳩の街　長岡・鈴木六可仙

◇

金なし器量も良くないくせに　不思議と女に持てる奴　選者

はと笛

▽…松竹大船「燃ゆる限り」(演出原研吉)に出演中の斎藤達雄、生活力がなくて、バクチが好きで、だらしない父親の役。先だって藤沢ロケで撮影の合間に、ドーランだけ落し、無精ヒゲぼう〳〵、ヨレ〳〵の薄汚れた和服の着流しで街を歩いていたところ、駅前で占師につかまった。

▽…面白半分占わせてみると、その占師の曰く「あんたはいまドン底の境遇にあるね」とまずいわれた。続いてバクチを止めなさい、競輪競馬もいかん、家族に卒中の患者があるのとおよそデタラメだらけ。彼は役とは無関係に、私生活ではおよそ勝負事も酒もやらない真面目な男なので、つく〴〵呆れて「なりふり構わんとあゝいう眼で見られるもんですかなあ」

【写真は斎藤達雄】

東宝演藝場　八月一日開場

東宝では東京宝塚劇場の四階スカラ座を十四日から開場するが、五階の東宝演芸場(定員四五〇名)は八月一日から開場することになった。同演芸場は往年の東宝名人会を復活させるものとみられるほか、貸ホールとしてテレビ中継や公開録音に使用したり、演芸ものの貸席など多角的に経営して行くことになっている。

…茂男作「週末」一幕と武田泰淳作「ひかりごけ」一幕とエピローグの二本を浅利慶太演出により十六七日の両日、東京駅八重洲口前、国鉄労働会館ホールで上演する。出演者は水島弘、日下武史、平田葉介、井関一、川村文雄、湯浅津子、北村葉子など。開演二時、六時半の二回。一三〇円。

催し

花柳茂香「古調の夕」九日六時、第一生命ホール。賛助出演花柳茂実、輔夫、茂香は「北州」と「鷺娘」を出す。

糸田芳雄・井上蹲2人展　九日まで、日本橋丸善画廊で。

第一回リヤン油絵3人展　若林三郎、松浦晴二、足立禮二郎の近作を十二—十六日まで神田駿河台下、文房堂画廊で。

消息

松竹音楽舞踊学校の電話は六日から次ぎのように変更。(54)三五五一—二番

外山利郎氏(日活株式会社人事課長)四日午後二時半会社で執務中脳溢血のため死去、四十六、告別式は六日自宅で行われた。

マンボとゆかた

▽「アモール」娘のゆかたお色気納涼まつり▽

ゆかたを着てマンボを踊ってみせたのは、ピンボウ・ディナウが一番始め。真似して「アモール」の娘が浴衣マンボとしゃれている。悩ましいこと、イヴニングや振袖の比ではない。夏の色気のオブジェは何といってもスケて見えそうな柔肌にある。チラリ、涼風をはらんで乱れる裾から真白いフクラハギが覗いたら、久米の仙人でも雲から落ちるかも知れぬ。催しは七、八、九の三日間、所は池袋駅西口バス通り、二叉交番の先をちょっと右に入った「アモール」というキャバレー。マンボデモストレーションと銘打っての納涼祭りである。アモール名物の景品つきサービスがありビール二百円、その他百円均一の大衆ギャバレーだ。

一等に小野正美さん　マスヤ技術コンクール　当選者決定

有楽町日劇裏「マスヤ洋服店」では5日第4回背広服技術コンクールの投票者抽選を行い次のように当選者を決定した。

【一等】品川区豊町二ノ一三四〇武井方小野正美【二等】豊島区千早町一ノ四三川真田忠義・北区中十条三ノ十一嘉山一夫【三等】板橋区舟町二ノ十五舟明寮松永忠孝・目黒区中目黒二ノ三六四永茶荘島田栄之助・台東区御徒町三ノ十三輪吉次・埼玉県北足立郡草加町織田昇・千代田区五番町二雨宮津也子【四等】大木幸子・吉野八郎・中川栄三・鈴木三郎・野々山義三・伊藤喜久二・小玉真男・井原みな子・稲村浩司・竹村嘉男・加藤木之実・立川勲・藤田大司・船越進・岡部竹子・飯田秀一・北原富士次・坂川正美・長谷川公子中島勲・田高頼子・吉谷嶺之・斉木約子・松村澄男・浅野昌子山本英輔・大西和雄・山本博・和田勉・三上清平。(敬称略)

愛情の表現 (その三)

若返り四十八手

毎夏のことながらこう暑くなってくると、課長の榎本さんはサッパリ食欲は進まず仕事の方もちっとも能率は上りません。もっとも当年五十二歳で十九貫もあるのですから、自分の身体をもて余す方です。

こんな調子ですから、この春二度目のしかも半分も年下で、娘のような若い奥さんをむかえた榎本さんは夏の間だけは奥さんに対する愛情の表現ができないわけです。きょうも蒲田のお定事件の新聞をみながら、

「あらッまたお砂糖だワ、おこまではいかなくても浮気のできる男がウラヤましくてなりません。また奥さんの方は、マンボでも踊りにホールへ行きたいくらいの若さですから、ジリジリしてきますおかげでした。

中元というときまってお砂糖とか、おビールなのネ、古くさいの」

と、貰い物にまでケチをつけるような始末—そこへまたお中元を持ってきた人がいました。

フンまたお砂糖かおビールでしょう、と玄関にでたら、お中元の文字だけは大きいが小さな包です。それから一週間ほどたちました。—夏負けで社を休むはずの榎本課長は、毎日ニコニコ元気に出勤です。そのうえときどき「ウチの妻は…」などとオノロケも飛出すくらいですから適当に愛情の表現もしているようです。

これも考えればお中元に貰った小さな包〝ダブル・ヘルス〟のおかげでした。

映画演劇案内